

---

# 風邪引いた...

かがアン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

風邪引いた…

### 【Nコード】

N7937A

### 【作者名】

かがアン

### 【あらすじ】

風邪を引いたとき気をつけて欲しい話です。

それは俺が高校一年の夏休みのことだ。俺は高熱を出して大好きな部活を四日も休んでしまった。

部活…ではなく本当はまだ同好会なのだが。

俺が所属しているのは演劇同好会だ。先輩や先生とも日々楽しく活動していた。

大会本番が近付き練習や装置作りが忙しく、朝の八時から夜の十時まで部活が続いていた。そのせいで疲労が溜まっていたのだろう。しかし本番が近く神経を張って生活していた俺は疲れた顔一つ出ず。疲労が溜まっていることに周りも自分さえも気付いていなかった。大会がなんとか終わって二日後…事件は起きた。

俺は四十度近い熱を出してぶったれてしまったのだ。

病院にも行ったが頭痛も鼻水も止まらずもがき苦しんでいた。しばらくしてだいぶ落ち着いてきた俺は部屋で寝ていた。

二日目…三日目…そして今日、四日目。

部屋の外から母さんの声がした。

「お友達がお見舞いに来てくれたわよ。」

多分部活の皆だろう。と思いそのまま寝ていた。

「がちゃ」

とドアが開き

「よっ。大丈夫か……」

声が小さくなった先輩の方を見ると顔が真っ赤だった。

俺は不思議で仕方なかった。

先輩や部活の子は三人ほど来ていたが一向に部屋に入って来ない。

「げ…元気そうだな…あははあはは。」

と先輩が言い

「熱のときくらい我慢しろよ…」

ともう一人が言つてすぐに歸つてしまった。

「急ぎの用事でもあつたのだろうか。」

と熱で朦朧としている俺には深く考えることなどできなかった。

それから二日後。元気になった俺は部活へ向かった。

「皆おはよう。」

しかし元気な挨拶は返つてこない。

「なんだよ、なんだよ。」

と部活を始めた。がなんか皆ヨソヨソしい。

その帰り道、部活内で一番中の良い友人に

「なんか皆の態度がおかしいんだけど……俺が風邪引いて長いこと休んだせい？」

と聞いてみた。すると、

「ああお前が風邪引いて見舞に行つた先輩が

「熱でダウンしてたけど下はかなり元気だったぜ。布団の回りはデ  
イッシュだらけだった。」

つて」

それを聞いて俺は焦つた。

そう、先輩たちが見舞に来たとき、体が思うように動かず鼻水が多くでていたから使つたティッシュをゴミ箱に捨てられず布団の回りに散らばせたままだったのである。それから誤解は続き俺が三年になつた今でもこの話は部内で語り継がれてるらしい。

（後書き）

皆さん気をつけてくださいね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7937a/>

---

風邪引いた...

2011年1月19日22時32分発行